京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
(761) 2054 直通
(751) 2111 (内線2571)
振替・京都3909
(1部30円 1年間1,000円)

2・14再開第5回狭山公判

検察側を追い詰める

2月14日狭山差別裁判第5回公判糾弾闘争は、国家権力・東京都当局の大弾圧、日比谷公園使用の非合法化という攻撃を打ち砕き、部落解放同盟を先頭に全国から結集した労働者学生 8,000人の一致団結した力をもって終日戦闘的に闘いぬかれた。2月7日の公判に引き続き、この日も国家権力は、宗派革共同革マル派の狭山闘争への差別的敵対的介入を利用し、「内ゲバ防止」を口実に、日比谷公園内外を2千人の機動隊をもって包囲制圧し、部落大衆、戦闘的青年労働者、学生の共同闘争を破壊せんと試みた。このような攻撃に対し、結集した8千人は部落解放同盟の指揮のもと終始戦闘的に闘いぬき、法廷内で断固として闘っている石川一雄君との固い連帯をもって、石川君を奪い返すまで一歩もひく事なく前進することを誓いあった。この日の集会においては、74実力春闘を総評指導部の「国民春闘」という枠への秩序づけを打ち砕き、生産点からの反合実力闘争からゼネスト・政府打倒へと付闘いぬかんとする戦闘的労組青年部の発言が相つぎ、74春闘と狭山差別裁判糾弾闘争の結合を課題とし、本工組合主義的労働運動を強い破る労働者運動を構築してゆくことが誓えられた。なお次回公判は 3月22日 午後1時から。

国家権力の弾圧を打ち砕く

74春闘との結合を課題に

二月十四日、狭山差別裁判再開第五回公判闘争は、国家権力・東京都・警視庁・東京都当局の大弾圧攻撃をはねのけ、全国から結集した八千人の部落大衆、労働者学生、高校生の一致団結した力をもって闘いぬいた。国家権力は革共同革マル派の狭山闘争への敵対的介入・日比谷野音での集会・集会を口実とし、「内ゲバ防止」の名のもと日比谷公園周辺を制圧し、さらには公園内にも侵入し、狭山闘争への大弾圧をかけてきた。さらに東京都は公園の入口に「一般の入口禁止」などという差別的立札をたてるなどし、さらには「小公園の集会は許可を得ていないと、小公園での大衆的糾弾闘争の労合法化をはかろうとしてきた。

しかし、十四日早朝から小公園には大弾圧網を打ち破り、部落解放同盟行動隊をはじめ戦闘的部落大衆、労働者、学生の力をもって結集し、法廷内外一致して闘いを展開する必要がある。本日の公判は、双方の証拠申請、採否をめぐる闘いで、大きな山場をむかえている。共に力一杯闘いぬき、石川君を一日も早く取り戻そうとのアピールがなされ、会員の力強いシュプレコール、解放歌、差別糾弾打ち砕こうの合唱をもって傍聴団を送り出した。

続いて、狭山闘争事務局長西岡中執より行動提起として「国家権力は一・七公判に三千二百の機動隊を動員し、本日はそれを上回る弾圧をかけ、さらに会場使用禁止の攻撃までかけてきている。さらに集会周辺に挑発分子を送りこみ、集会の混乱を口実に狭山闘争の破壊を狙っている。このような弾圧を突破し、11・27闘争を突破しようとする部落大衆と労働者階級の共同の闘いは

反弾圧レポート

反革命包囲網を打ち破れ！

「土田」・「日石」大謀略事件

(6) 続

「土田」・「日石」大謀略事件をめぐる権力のボロ大なフレームアップは、各公判の進展とともにその「虚構」の姿が露呈しはじめている。六九年組の五人の統一公判を除いては、各公判とも、被告人の「自白」のみが唯一の「証拠」であるとしてフレームアップの事実は暴露され、「自白」に入っており、今後公判の進展とともに、各所で、矛盾を露呈しはじめている。六九年組の五人の統一公判を除いては